

# 清里町

6332

中橋智樹

## 1. 清里町の概要

### 1.1 町の由来

清里町は清らかな里であるという意味と、小清水村と斜里町から分村したという歴史を将来に残す意味（「清」は小清水の清、「里」は斜里の里である）を兼ねて、清里と名付けられた。

また、町章昭和 28 年に制定され、周囲の円は町の和を表明し、中央の三角は清里町の象徴秀峰斜里岳を図案化したものである。

図 1：清里町の町章



出典：清里町役場

### 1.2 町の歴史

明治 2 年に、当時の政府は蝦夷を改め北海道とし、11 国 86 郡を定め、ここにはじめて北見国斜里郡となった。明治 5 年に開拓史根室支庁の管轄となり、明治 15 年、根室県に属することになったが、明治 19 年に根室県が廃止され、北海道庁の管轄となった。

そして、昭和 18 年に斜里町及び小清水村一部を分かち上斜里村が誕生した(開村)。昭和 30 年には町制が施行され、町名を清里町と改称した。それ以後の出来事は以下の通りである。

表 1. 清里町の年表

年	出来事
昭和 43 年	町旗、町民憲章を制定。愛の鐘建立
昭和 48 年	役場庁舎落成。第 1 次清里町総合計画策定。
昭和 50 年	町制施行 20 周年を記念して町花「ムクゲ」、町木「オンコ」を制定。大橋道生氏が町長に初当選。
昭和 52 年	裏摩周地区阿寒国立公園に指定される。
昭和 54 年	じゃがいも焼酎「きよさと」発売。
昭和 55 年	斜里岳が道立自然公園に指定。第 1 回「ふるさと産業まつり」開催。
昭和 62 年	第 1 回「焼酎フェスティバル」開催。
平成 元年	第 1 回みどりのフェスティバル開催。
平成 4 年	全国農村景観 100 選（特選 20 選）に選ばれる。
平成 7 年	橋場 博氏が町長に初当選。

平成 9 年	清里町百年記念事業、ニュージーランド・タスマン地区・モトエカと友好都市提携
平成 13 年	第 4 次総合計画重点プロジェクト「花と緑と交流のまちづくり事業」スタート
平成 15 年	全国花のまちづくりで日本一（農林水産大臣賞）
平成 17 年	清里町制施行・町名改称 50 周年
平成 18 年	過疎地域自立優良事例表彰で総務大臣賞を受賞
平成 19 年	平成 19 年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞

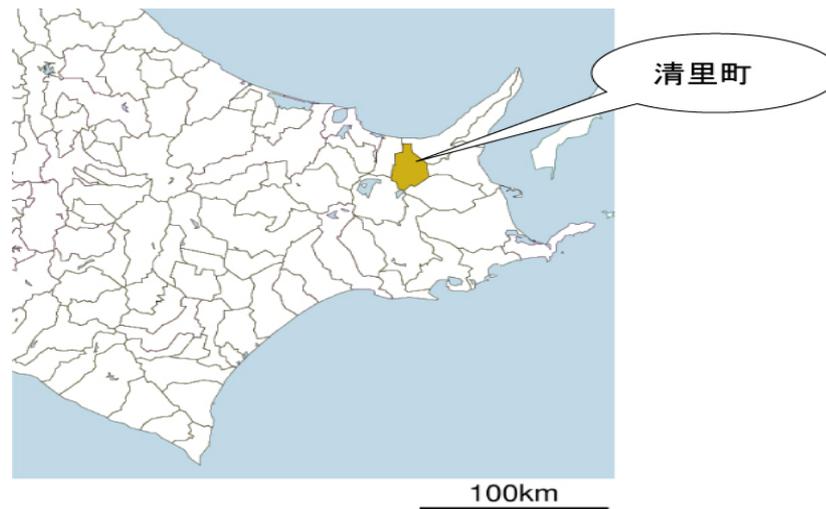
出典：清里町役場

## 2 . 清里町の位置

### 2.1 地理・気候

位置として、清里町は北海道の東部にある知床半島のつけ根に位置し、知床国立公園、阿寒国立公園・網走国立公園・斜里岳道立自然公園に囲まれている。位置を経緯度で見ると緯度は「北緯 43 度 36 分 40 秒～43 度 53 分 54 秒」で、東経は「東経 144 度 29 分 24 秒～144 度 44 分 24 秒」となる。

図 2：清里町の位置

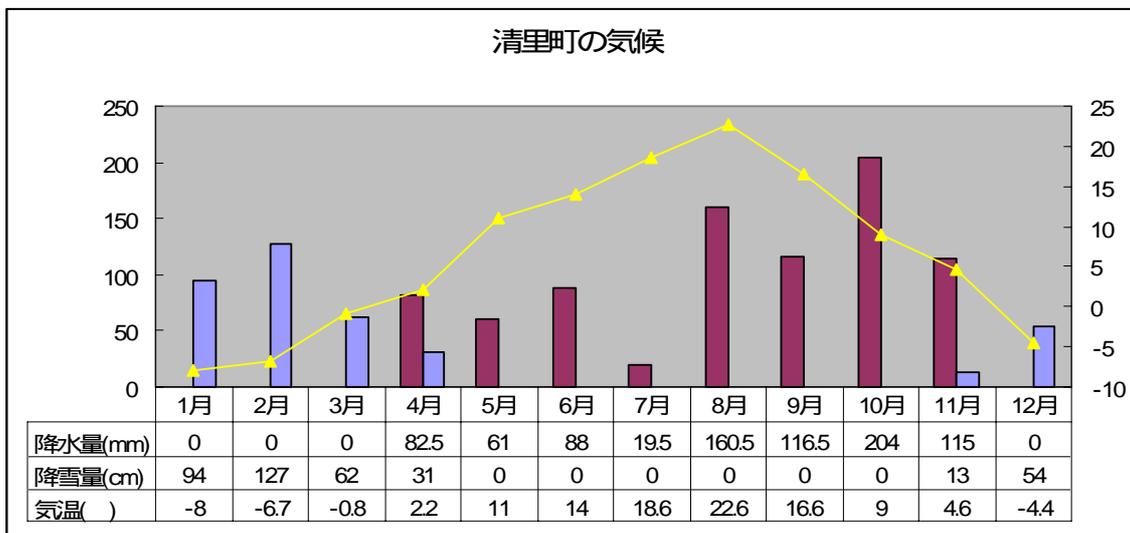


出典：ウィキペディア

また、気候はオホーツク高気圧の影響がきわめて強く、夏は温暖で雨量が少なく、冬は風が強いわりに積雪量はあまり多くないという概ね大陸性の気候となっている。

以下は平成 18 年に清里町が羽衣観測地点で調べた結果である。

グラフ 1 . 清里町の気候

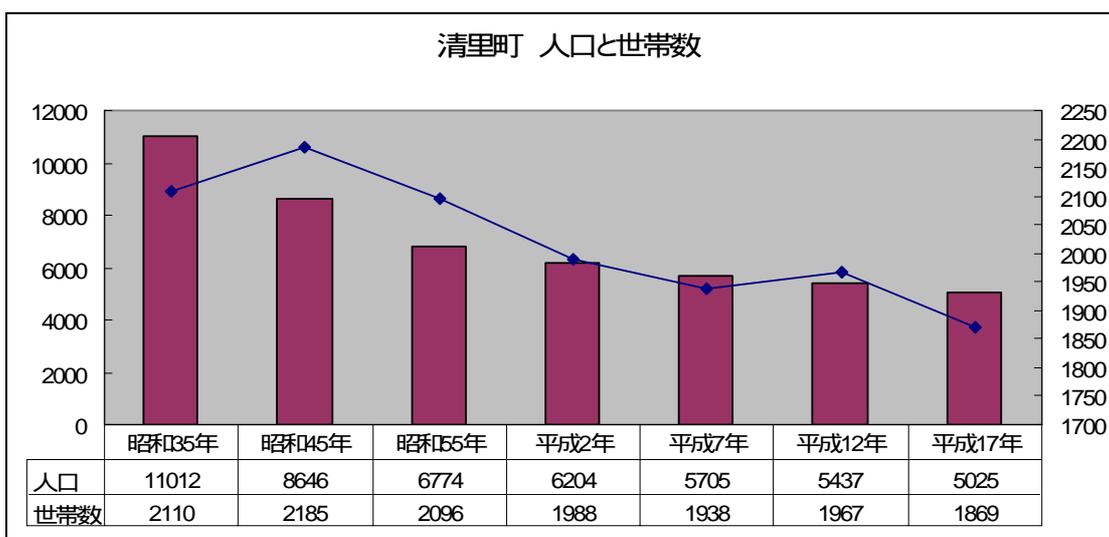


### 3 . 清里町の人口

#### 3.1 人口・世帯数推移

平成 19 年 4 月末の住民基本台帳によると、総人口は 4,838 人で、世帯数は 1896 世帯である。以下は昭和 35 年から平成 17 年に行われた国勢調査の結果である。この表を見ればわかるとおり、人口自体は減少傾向にあり、世帯数も徐々に減ってきている。しかし、高齢者の割合は増えている。

グラフ 2 . 清里町の人口と世帯数の推移



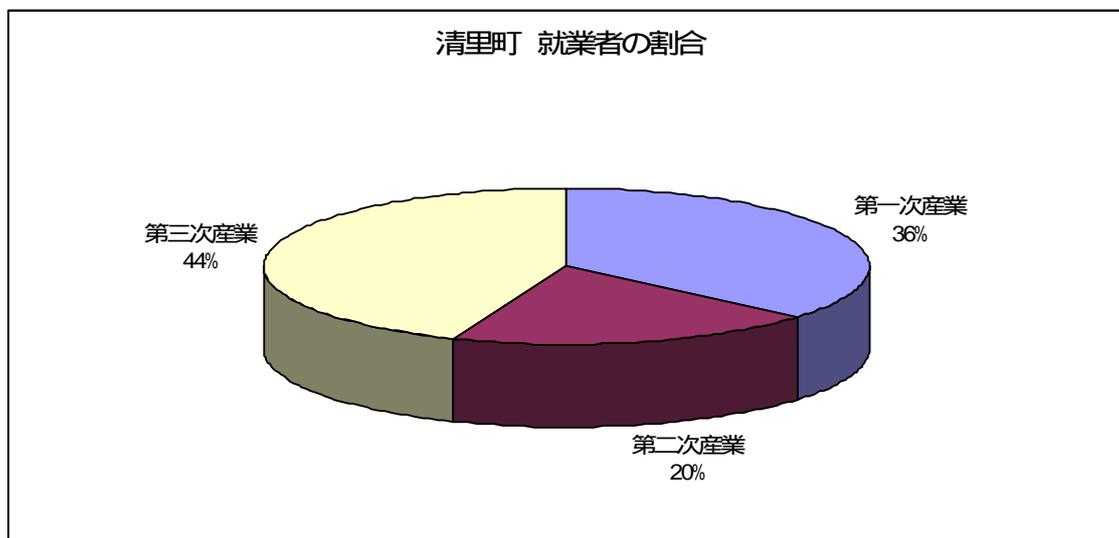
## 4 . 清里町の産業

### 4.1 概要

清里町の産業は、農業と製造業、建設業などを基幹としており、農業は、畑作と酪農の専業が主体、林業は本町面積の約7割を占め、その大半は国有林となっている。工業は地場資源を活用した農産加工・木材木製品製造業が中心となっているが、いずれも中小企業が多くなっている。また、商業は、地域への生活物資の供給等が主な小規模商店で構成されている。

以下の図は、平成 17 年に国勢調査を行ったときの清里町の産業別就業人口である。

グラフ 3 . 清里町の就業者の割合



個々で見ると、農業に従事している人口がもっとも多く、次に人口が多いのが、製造業となっており、農業と製造業が盛んであることがわかる。

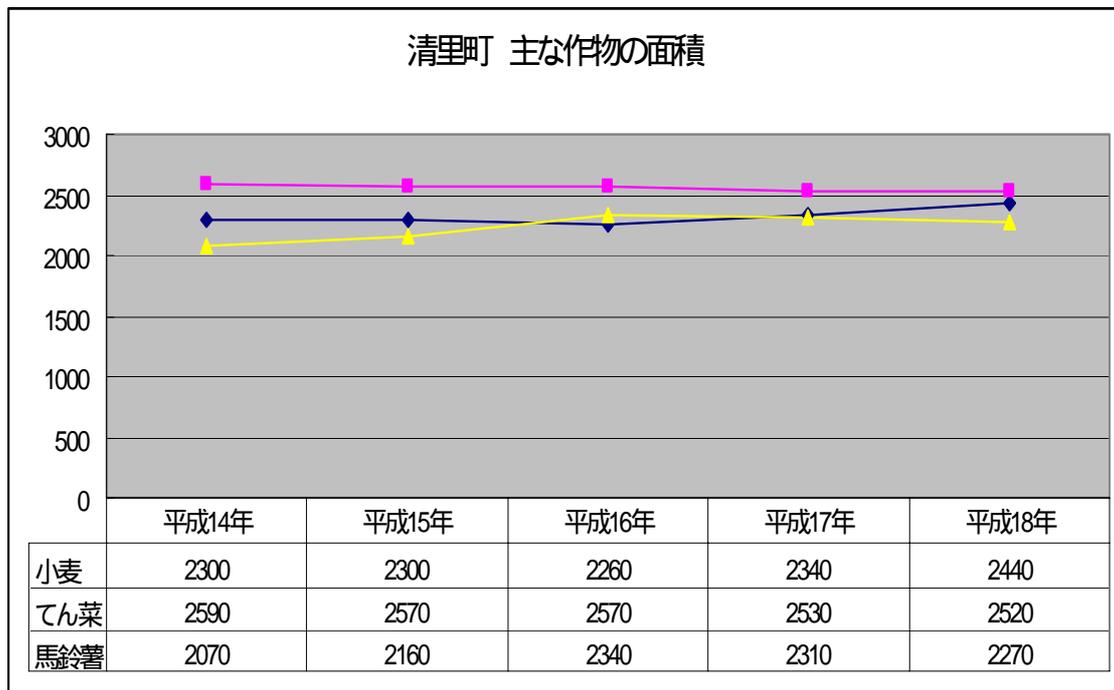
### 4.2 農業

清里町の農業は、小麦、馬鈴薯、てん菜を中心とする畑作と酪農が主体であり、規模拡大や機械化等を進め、生産性や収益性の向上を図ってきている。また、豆類、野菜等の導入や、緑肥作物の栽培、たい肥の投入等の土づくりを進めるとともに、排水改良や草地整備、家畜ふん尿処理施設の基盤等の整備を進めている。

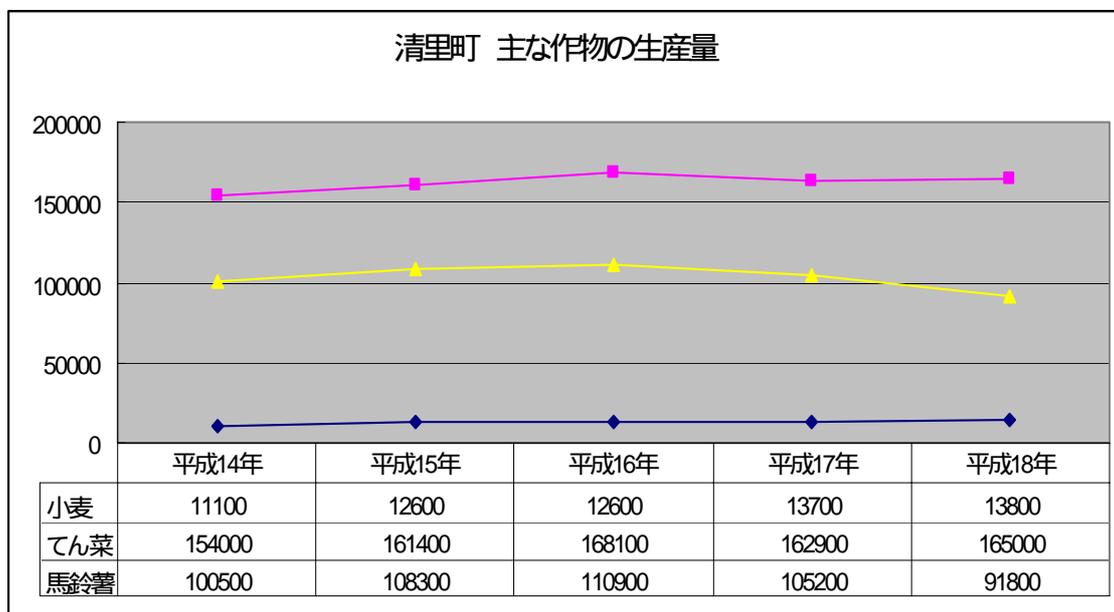
現在、農家戸数は、減少傾向で推移しており、平成 16 年は、252 戸、耕地面積は、造成等により平成 3 年まで増加してきたが、その後は、やや微減傾向で推移し、15 年で 9,193ha、1 戸あたりの耕地面積は、年々増加しており、平成 15 年で約 36ha と 1 戸あたりの耕地面積の規模拡大が進んでいる。

以下の図は、平成 18 年に北海道農林水産統計が出したものである。

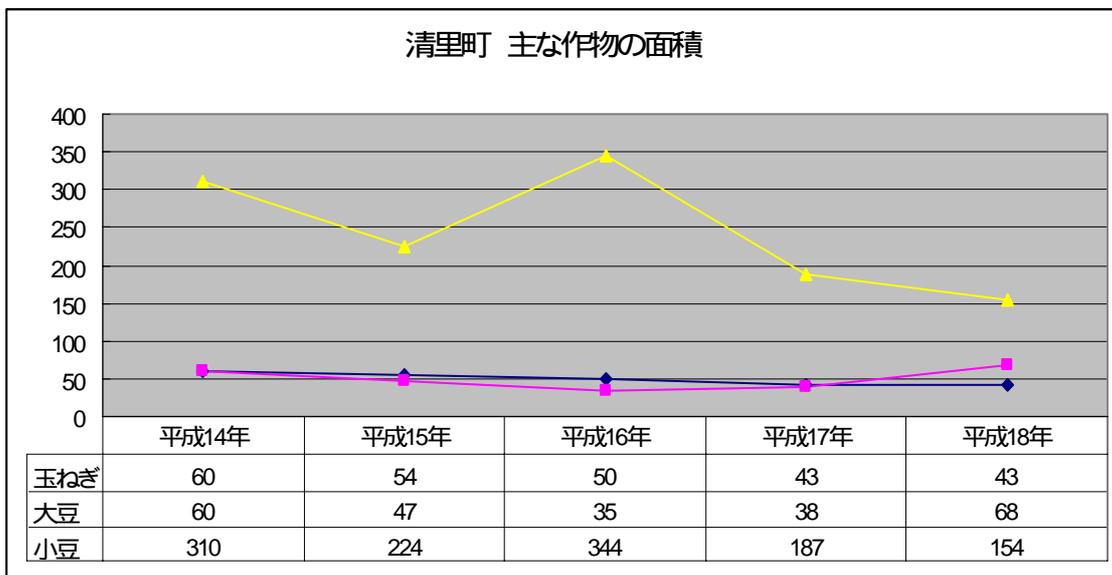
グラフ 4 . 清里町の主な作物の面積



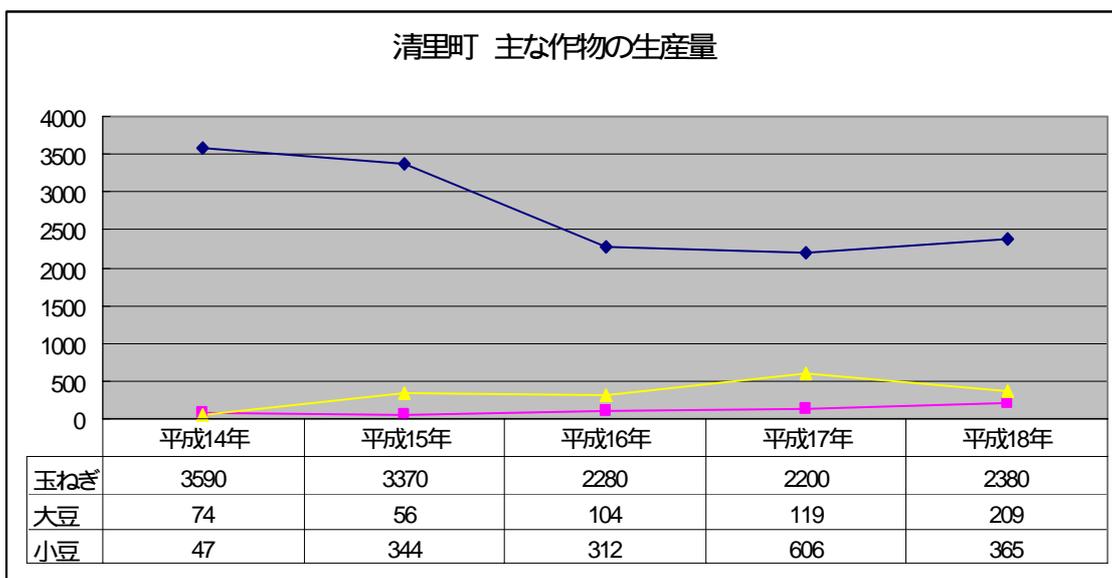
グラフ 5 . 清里町の主な作物の生産量



グラフ 6 . 清里町の主な作物の面積



グラフ 7 . 清里町の主な作物の生産量



#### 4.3 製造業

清里町が第 2 次産業の中で、もっとも力をいれているのが、製造業である。その就業人口は 317 人で、第 2 次産業に従事する人口の約 6 割を占めている。また、その内容としては、地場資源を活かした農産加工品や木材木製品が、その中心となっている。しかし、いずれも、中小企業が多くなっている。

## 5 . 清里町の観光

### 5.1 主な観光地

「自然の深さ」というものを学ばせるのが知床町ならば「自然の優しさ」を感じさせるのが清里町といわれている。清里町の中でも、特に「斜里岳」と「摩周湖」は有名であり、毎年、多くの観光客がそこに訪れる。

「斜里岳」は日本百名山のひとつとしても有名であり、先人たちからは「オネブリ(大山の意)」として神の如く崇められている。また「摩周湖」は神の湖といわれ、出入りする川がない湖である。その摩周湖を近くで望むことのできる「裏摩周展望台」にも、多くの観光客が訪れる。

観光客は、日帰りで来る人が多く、宿泊客はあまりいない。また、網走管内の中で、観光入込客数を比較してみても、その数は少ないほうだといえる。

写真 1 : 摩周湖



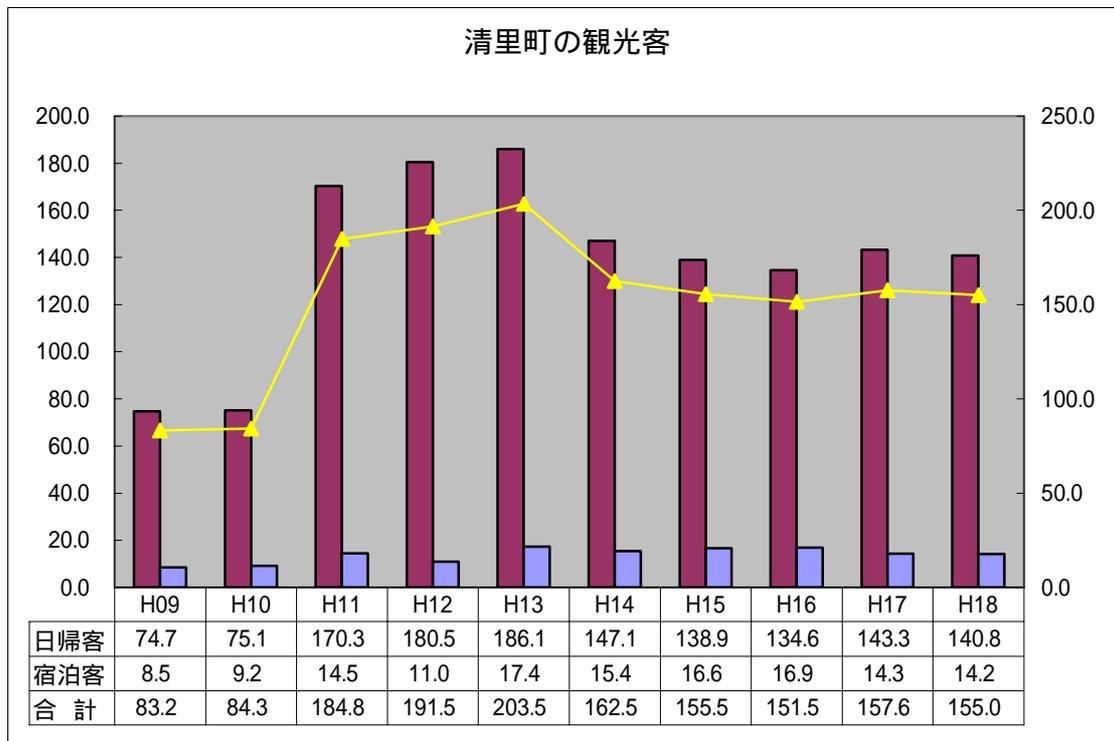
出典：清里町役場ホームページ

写真 2 : 斜里岳



出典：清里町役場ホームページ

グラフ 8 . 清里町の観光客



## 5.2 主な名産品

清里町は、日本有数のジャガイモの産地である。そのため、昭和 50 年からジャガイモを利用した特産品の模索がはじまった。そして、その 4 年後の昭和 54 年の 4 月に、念願の日本発「じゃがいも焼酎きよさと」が発売された。

写真 3 : じゃがいも焼酎

現在、清里焼酎は品質に裏打ちされた本格焼酎として、ブランドを確立し、生産を大きく拡大している。



また、この焼酎は斜里岳の湧き水を仕込み水や割水に使用しており、地域の特性を活かした名産品だといえる。

出典：きよさと観光協会